

「自治会ニュースコンクール2018」講評

(2019/03/09 審査委員長)

本コンクールは2011年度から生駒郡、北葛城郡の2郡を対象にスタートし、その後、対象地域を広げ、2014年度から全県コンクールとなった。

今回応募があったのは、8市6町の28自治会・大字・自治連合会。前年度より5団体増え、本年度に創刊して応募したところが3団体あった。

応募数は年度により増減があるが、ニュースを持たない自治会が圧倒的に多い中で、年々、本コンクールへの認知度が高まり、創刊のモチベーションにもなっていると思われる。

今回の大きな特徴はまず、絶対評価で上位にランクされ、優秀賞と遜色ないニュースが、前年度にも増して多かったことである。それだけ、紙面づくりに工夫を凝らしていることが窺え、うれしいことであった。

次に、ニュースの発行と併せてWEBやSNSで配信しているところが増えたことである。これは喜ばしいことだ。

ただ、本コンクールは2011年3月11日に発生した東日本大震災を教訓にスタートしたものであり、紙によるニュースを評価対象としている。

あの大地震で、家族、親族、友人、ご近所さんの安否確認をはじめとする地域内での情報の伝達、共有手段として最も威力を発揮したのは、避難所に掲示されたり配布された紙の媒体であり、その重要性を再認識させられたからである。

今後、自治会ニュースのいっそうの普及を図るとともに、応募することに意義を感じられるコンクールにしていきたい。

なお、『審査委員奨励賞』は評価基準に基づく総合評価にとらわれることなく、各審査委員が独自の視点から奨励の意味で選んだものである。

選外となった団体には審査委員のコメントを送付している。参考にしていただければと思う。

最優秀賞

◆「泉台ニュース」(河合町／泉台自治会)

創刊から 2018 年度で 50 周年。「泉台ニュース」のタイトル近くに記された数字がその歴史を語る。モノクロ紙面で一見地味だが、写真が鮮明で読みやすく、ニュースは質量ともに充実。自治会活動の報告や啓発活動など住民へのサービスも細やか。花壇・公園部やいきいきサロンなどの活動からは、地域コミュニティの成熟度が伝わってくる。70 歳以上を対象とした無料の散髪サロンのお知らせは、高齢者にはうれしいことだろう。トップページが大きく変わったが、ページ数が多いので、目次は残した方が良かったかもしれない。

毎日新聞社賞

◆「西真美だより」(香芝市／西真美自治会)

トップページに、目を引くカラー写真と目次。読んでみたいという気を起こさせる。地域の催し、生活情報、防災対策など内容は盛りだくさんだが、よく整理され、写真の扱いとレイアウトがうまく、読みやすい。地域の実情を映し、高齢者、子育て世代、子どもたち、それぞれへの目線がはっきりと感じられる。「地域防災通信」は、身近なテーマを取り上げているので、どの世代でも理解できるだろう。未就園の子育て世代に向けた最終面の「きゅうぴいクラブ西真美」はカラフルで楽しさいっぱいだ。

優秀賞

◆「香芝 旭ヶ丘」(香芝市／香芝・旭ヶ丘ニュータウン自治会)

中学生以下が 22%という若い世代が多く住む活動的な自治会。カラー写真をふんだんに使っており、スッキリして読みやすい。登場人物に世代の偏りがなく、誰もが親しめるつくりになっている。写真は被写体のアップと全体の風景をうまく組み合わせ、レイアウトにも工夫が見られる。餅つき大会や文化祭などのイベント紹介は、催しごとに見出し、写真、原稿をバランスよく配置している。「蚊の発生防止にご協力下さい」は好企画と言えるだろう。

◆「富雄だより」(奈良市／富雄地区自治連合会)

22 自治会の連合体だが、各自治会の広報委員が取材した記事や写真を持ち寄って編集しており、連合会のニュースとしてはキメ細かで、バラエティに富んでいる。しかも、構成のバランスが良く、レイアウトや色使いも優れているため、読みやすい。冗長な原稿はなく、ぜい肉を削ぎ落としている感がある。イベントや催しの見出しには、日時や参加者数がうまく配置されており、伝えたい情報が一目で目に飛び込んでくる。

◆「三輪区コミュニティ新聞 馬酔木」(桜井市／三輪区自治会)

派手さを求めない落ち着いたつくり。レイアウトも記事内容も洗練されている。何よりも文章がうまく、読ませる。歴史モノもイベントレポートも自治会のニュースも、分かりやすい文章で、すうーと頭に入ってくる。歴史に興味がある人、イベントに興味がある人など、自治会活動に関心を持ってもらうための多様な切り口が盛り込まれている。最終面の定位置に行事予定の一覧。紙面全体に郷土愛が漂っている。

審査委員奨励賞

●郷土愛賞「なんごう瓦版」(御所市／南郷自治会)

83世帯、約210人の小さな自治会。アッと驚く紙面。一面のトップにいきなり大きな活字で「中学入学おめでとう！〇〇君、△△さん」。あるいは「ムラの祭事寸景」を載せ、自由奔放で個性的。カラー写真が効果的だ。それに毎号の特集が秀逸。「見つけましたよ！南郷区有林」という6人による探索レポートが実に楽しい。新たな発見への喜びと郷土愛に満ちている。

●高齢者にやさしいで賞(香芝市／関屋近鉄住宅地自治会)

自治会と老人会、地域福祉推進委員会が、今年度(2018年度)に創刊。ニュース名はなく、「高齢者支援の取り組み報告」というタイトルのもと、高齢者支援に絞ったA4判1ページの紙面を全戸に配っている。「宅配弁当の試食会」「買い物ツアー」「ネットスーパー利用の講習会」「介護問題学習会」等々。カラーの写真とカットが良く、優しさに溢れている。

●開発に備えま賞「西辻区広報・西辻区開発だより」(葛城市／葛城市西辻区)

住民には頼りになるニュースを毎月、地道に発行しつつ、これと並行して、今現在住民の関心度が高く情報共有が必要な「特区」指定による開発に絞ったニュースを別立てで発行している。これを担当する区長さんと副区長さんは大変だと思うが、その“報道精神”は、大きな災害などが起きた時のニュースづくりの在り方を考える上で、示唆を与えてくれる。

●壁新聞賞「自治会壁新聞」(生駒市／ローレルコート萩の台自治会)

9棟から成る分譲マンションの自治会。戸数は235あるが、自治会への加入率は60%を切っているという。壁新聞は、いわば“新聞の原点”。タイムリーな情報がカラー刷りでコンパクトにまとめられている。戸別配布ではない分、年間20～30回発行して、エレベーターホールに掲示しており、自治会の加入率を上げたいという強い思いが伝わってくる。

●ほのぼの賞「広報 平岡」(葛城市／平岡)

A4判1ページ。散りばめられたカラー写真を見るだけで、ほっこりした気分になる。地区の伝統行事や催しの様子がよく分かり、人々の絆が伝わってくるようだ。毎月発行し、全戸に配っている。住民も楽しみにしているのではないだろうか。「昔からの伝統行事の継承と親睦」という発行目的を、しっかり果たしていると思われる。

●いきいき賞「いきいき平城西」(奈良市／平城西地区自治連合会)

題字のロゴがとても良い。紙面は活字が大きく、余白もあって読みやすく、どの記事にも名称通りの“いきいき”感がある。新自治会長 7 人の顔写真を並べた紹介には驚かされた。エリア内に幼稚園、小学校、中学校があり、小中の校長先生の挨拶記事も載せている。子育て世帯から高齢者までの関心事を網羅した記事選定が魅力。

審査委員

- ・津野 恭 誉 元毎日新聞社論説委員
- ・一色 昭 宏 毎日新聞社奈良支局長
- ・山内 嘉 信 日本映画撮影監督協会副理事長
- ・毛利 嘉 晃 奈良県知事公室広報広聴課長
- ・鈴木 遥 ノンフィクション作家

以上